

中土佐町地域公共交通協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(令和5年度)

中土佐町基礎データ

合併状況:平成18年1月に1町1村が合併
人口:5,959人(令和5年12月現在)
面積:193.21平方キロメートル

中土佐町における主な公共交通概要

○鉄道:JR四国(土讃線)

○バス

(幹線)

- ①窪川駅を起点とし、四万十町と中土佐町主要施設を
経路する民間事業路線
- ②須崎を起点とし、中土佐町矢井賀を経路する民間事
業路線

(フィーダー)

・令和5年度地域内フィーダー系統として町内を運行して
いるコミュニティバスは、全7路線

久礼地区では、土佐久礼駅を起点に3路線が運行
大野見地区では、大野見保健福祉センターを起点に3
路線が運行している。

上ノ加江地区では、上ノ加江診療所前を起点に1路線
が運行している。

・フィーダー系統

- ①萩原・大野線
- ②楠ノ川線
- ③長沢・大坂線
- ④下ル川線
- ⑤萩中線
- ⑥高樋線
- ⑦上ノ加江線

地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

中土佐町の公共交通ネットワーク図



協議会の構成員

高知県 中土佐町 町内利用者代表 高知高陵交通(株)
(株)四万十交通 (有)中土佐ハイヤー (社)高知県バス協会
高知運輸支局 須崎警察署

前年度の事業評価における課題

一定の場所での意見交換会のみではなく、個別訪問など新たな利用者を生み出す取り組みに努める必要がある。

また、意見交換会では利用者のニーズを把握するのみではなく公共交通にどのくらいの予算がかかっている状況なのか、公共交通に対する意識を深めてもらい、利用してもらえるように、福祉部門や関係団体との協働による利用者のすそ野を広げる取り組みを展開していく必要がある。

定量的な目標・効果

(目標)

目標1:コミュニティバスの年間利用者数が、前年度実績を下回らない。

・系統①:6.3人以上、系統②:9.8人以上、系統③:3.7人以上、系統④:
13.9人以上、系統⑤:14.1人以上、系統⑥:7.6人以上、系統⑦:11.6人以上

目標2:コミュニティバスと路線バスの町内における年間乗降者数が、

前年度実績を下回らない。

・コミュニティバスおよび路線バス利用者数:46,200人以上

目標3:高齢者を対象としたお出かけイベントの定期開催の参加者数を

前年度と比較して5%以上増加させる。

目標4:「ICカードですか」を所有する人の数を、前年度と比較して5%

を超えて増加させる。

(効果)

各系統の運行を維持することで、中山間地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。

幹線系統の路線バスと連携することにより、広域的な移動における

利便性が向上する。

フィーダー系統図



①、②、③は、土佐久礼駅を起点として、久礼地区中心部は経路を共有して運行。

④、⑤、⑥は、大野見を起点として、萩中～大野見間は経路・ダイヤを共有して運行。

⑦は上ノ加江を起点として運行。

「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

- ・平成31年3月に策定した地域公共交通網形成計画の具体的施策に準ずるかたちで地区別意見交換会を行った。
- ・住民との意見交換により把握した利用者ニーズを共有し対応方法を検討するため、交通各社との調整会議(中土佐町バス路線運行ダイヤ調整会議)を行った。
- ・地域公共交通会議を令和5年6月に開催し、今後のフィーダー系統各路線の維持・再編、令和6年度からの地域公共交通計画について協議を行った。
- ・中土佐町地域公共交通網形成計画に沿って車両利用の利便性向上の検討を行った。

自己評価

事業実施の適切性

- ・地区別意見交換会の開催はできたが、公共交通利用者懇談会は昨年度に引き続き実施できなかった。
- ・地区別意見交換会で把握したニーズに合わせダイヤ等を改正、すべての公共交通を網羅した時刻表冊子の作成を行った。
- ・高齢者の買い物・通院等への移動手段として機能した。
- ・バスの乗り方教室を開催し、既利用者及び未利用者への利用促進を行った。

「定量的な目標・効果」の達成状況

- 目標1(コミュニティバスの年間利用者数が、前年度実績を下回らない)は、路線別には以下の達成状況となった。
- ・系統 ①萩原・大野線、②楠ノ川線、④下ル川線、⑥高樋線は、目標値に対し95%~123%と利用が安定した状況にある。
 - ・系統 ③長沢・大坂線は、目標値に対し16.6%と利用増となっているが依然利用者数が少ない状況にある。
 - ・系統 ⑦上ノ加江線は、目標値に対し Δ 12.7%と利用減となっている。バス事業者に状況を聞き取ったところ、原因は不明。安定して乗降いただいているとのことであった。
- 系統③長沢・大坂線は、戸別訪問において、潜在的な利用希望があったため、1年間様子を見たところだが路線の改編が必要と考える。
系統⑦上ノ加江線は、バス乗り方教室やコミュニティバスの説明会など実際にコミュニティバスに乗る体験会を開催するなど利用促進の取組みを進めていく必要がある。
- 目標2(コミュニティバスと路線バスの町内における年間乗降者数が、前年度実績を下回らない。)は、新型コロナウイルス感染症が落ち着き、5類移行になった影響もあり路線バス利用者数が回復傾向にある。前年度比6.2%増となり若干改善され目標は達成した。
- 目標3(高齢者を対象としたお出かけイベントの定期開催の参加者数を前年度と比較して5%以上増加させる。)は未実施となった。
- 目標4(「ICカードですか」を所有する人の数を、前年度と比較して5%を超えて増加させる。)は、目標値102人に対して、98人(小児用:4人、大人用:83人、65歳以上用:11人)となっており、目標値を概ね達成している。

今後の事業に向けた改善点

地域の移動ニーズを継続的にヒアリングし可能な限りニーズに対応していく。対応できないニーズについては利用者に理解してもらえるよう説明を行う。

また、高齢者等外出支援路線バス無料化事業(バスパス)のデジタル化本格運行に向けた課題解決に努め、利用者にとって利用しやすい環境作りを行い、利便性向上に努める。

並行して、デジタル化の周知を行い、未利用者に公共交通を知ってもらい、利用してもらえるように、福祉部門や関係団体との協働による利用者のすそ野を広げる取り組みを展開していく。

令和6年度から新たな地域公共交通計画が始動するため、策定した目標が達成できるよう努める。

【公的負担】

令和5年度: 14,249千円

前年比: 1.2%

・年々公的負担が増加している。昨今の物価高騰の影響等もあるが、今後も増加していくことが想定される。公的負担額の適切な範囲と費用対効果及び利便性の維持について公共交通会議で議論し、定量的な目標設定を行う。

その他PRポイント

町内を運行するすべての路線バス(コミュニティバスを含む)を網羅した時刻表冊子の作成をおこなった。
高齢者等外出支援路線バス無料化事業のデジタル化の実証をおこなった。